

McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds):  
The Historical Development of Physiological  
Thought. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

### 編集後記

西暦二千年の記念すべき年の第一号をお届けする。この時にあたって編集業務が新たに日本学会事務センターに移管され、その第一号ともなっている。移管されたとはいえ、本誌の内容にいさかも変更がないことはご覧頂ける通りである。しかし投稿規定や、原稿の送付先などが変更されているので、十分ご注意頂きたいと思っている。▼会員の皆様の内容の充実したご投稿によって会誌が順調に発行できることは、編集委員会としてはもっとも喜ばしいことである。会誌の発行はまさに会員の投稿に支えられていることができよう。だが投稿が多岐にわたってくると思わぬ事態が生ずることがある。その一例として昨年、ある会員から査読に時間がかかりすぎるのではないかと

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。  
一〇 原稿の送り先

〒二三〇〇三 東京都文京区本郷六一七一九

本郷綱ビル二階

財団法人日本学会事務センター学会共同編集室内、  
日本医史学雑誌編集委員会

というお叱りを頂いた。▼その領域について豊富な知識を有しておられる会員を最適任者として査読をご依頼申し上げているが、ご承知のように査読というのはまことに気骨の折れる、面倒な作業なので、お願いする委員会としてもなごしかの躊躇いを感じることも多い。▼医学系の諸学会では査読期間を二、三週間だときいているが、本学会では充分ご検討頂くためもあって審査期間を二ヶ月としている。お忙しいお仕事の合間をぬって査読して頂くに違いない、とおもうだけに査読期日が超過してもなかなかご催促を申し上げるのとはばかれる、というのが現実の状況である。力作をお寄せ頂いた著者のお立場も十分ご理解頂いて、期限内にご返送頂くことをあらためてお願いしたい。

(深瀬 泰旦)